

企業を訪ねて 13

ウエカツ工業株式会社（ハードディスク関連事業、メディア関連事業）

「繊維業として創業以来、時代の変遷を乗り越えるチャレンジを続け、
高品質な製品づくりを展開」

平成29年2月28日、上越市にあるウエカツ工業株式会社に代表取締役の小林清作氏を御訪ねし、本学との連携や事業展開に懸ける思いについて御伺い致しました。



小林 清作 代表取締役

聞き手：原 利昭 本学副学長（地域産学交流センター長）

◆日頃は何かご支援を賜り、謹んでお礼申し上げます。本日は、本学に期待するところ等をお聞かせ下さるようお願い致します。

小林氏◇新潟工科大学は地元産業界と密接な連携体制を構築している大学と感じています。柏崎にある貴学は上越地域に一番近い工科系の大学ですので、技術相談や共同研究、また卒業生の就職など、従来に増して連携を深められればと思っています。

◆ハードディスク用基板の生産では世界トップシェアの企業であります。今日に至るまでの経緯やエピソード等をお聞かせ頂ければ幸いです。

◇当社は国内生産のほか、マレーシアに工場を設立して10年が経ちます。需要地生産の考えにより、関連事業が集中するマレーシアが工場設立に適した拠点と考えました。現地社員は270人程でハードディスク用アルミニウム基板（アルミ・グラインド・サブストレート）の開発製造事業を行っています。日本とマレーシアでの二拠点体制により、需要変動が激しい状況に対処すべく、記憶密度向上の要望にも臨機応変に対応できる体制を実現しています。又、日本では更なる大容量化に備え、次世代基板の開発も担っております。

◆昨年度に続き本学3年生に、マレーシア工場でのインターンシップの機会を与えて頂きました。現地工場での状況や学生の実習等を通してどのような感想をお持ちでしょうか？

◇工場では、インド、ミャンマー、ネパール、ベトナム、中国等、国籍も文化も異なる7か国の従業員と一緒に仕事をしています。実習の様子を見る限り、現地での挨拶は日本よりもスキンシップ性が高いのですが、学生は現地流を実践していました。技術リーダーであるマレーシア人女性との英語でのコミュニケーションにも違和感無く取り組んでいました。今まで体験したことのない異文化での生活・就労体験は学生にとって大きな財産になると思います。

◆海外インターンシップという貴重な機会を与えて頂き有り難う御座いました。本学では大学院進学者を増やし、グローバルな視点を持った技術者の育成を考えておりますが、企業として学生にどのような点が重要とお考えでしょうか。

◇マレーシア工場では貴学卒業の社員が技術部長として赴任しており、当社の海外事業に大いに貢献しています。グローバルな環境下で海外事業を展開するうえで特に感じることで、事業拡大や新規事業を立ち上げる際には、最終的には新たな人材の確保・育成が一番大切なことと感じています。今春も貴学から2名採用しましたが、将来の活躍を楽しみにしています。

技術育成について期待することですが、何事にも挑戦する気持ちと意欲を持った学生さんの育成をお願いしたいと思っています。海外では英語でのコミュニケーションは必須であります。特に、大学院では異文化を理解する経験や学生の共同研究を通して産業界の動向を把握し、理解する等、高い人間性を持った人材育成が可能であり、大いに期待しております。それぞれの会社で、企業人としての教育や実践的なトレーニングは行いますが、大学には各分野で習得する専門的な知識と、社会人として、また組織人として必要な人間力を身につける教育を期待するところです。

◆本学教員が毎週、御社で技術講座のお手伝いをさせて頂いておりますが、社員の方の反応はいかがでしょう？

◇社員は、社内教育システムと共に社外においても地域の技術機関を活用した実践教育を受けております。貴学の教授からは機械製図等の講義を担当頂き、今後も継続したいと考えています。全ての業界に共通しますが、厳しいコスト競争の中で高品質な製品づくりを継続させるには社員の技術教育が大切と思っています。

◆お忙しい中、大変貴重なお話を伺いし、誠に有り難う御座いました。